

集合型TEKU-TEKU2024★調布・府中・聖蹟桜ヶ丘企画（活動記録+評価結果）

企画■駅と街の関係を歩き、考える（その2）～調布・府中・聖蹟桜ヶ丘～

日時■2024年6月22日（土）14時～17時半頃（集合型まち歩き）

コース■★①調布駅周辺整備（地下駅+地上広場、2つの文化施設・商業施設、線路跡遊歩道、百店街等）～

★②府中駅周辺整備（高架駅+デッキ・商業施設、大國魂神社ケヤキ並木+国司館跡、国際通り等）～

★③聖蹟桜ヶ丘駅周辺整備（駅ビル4棟一体の商業施設群+バスターミナル、再開発事業+公民館等）

参加者■新井英子*、井手幸人、伊藤圭子、加藤仁美、栗原 徹*、清水俊哉*、高橋 謙、原 久子、藤井正男、藤井幹也、古里 実、弓削孝浩*、大竹 亮（コーディネイター） 以上13名（*＝現地案内協力）

企画主旨■駅と街の関係を歩くシリーズの3回目として、京王線沿線（調布・府中・聖蹟桜ヶ丘）を訪ねます。

①調布では、鉄道と駅が全面的に地下化されて、南北の駅前広場が一体となった広々とした歩行者空間が創られつつあります。②府中では、鉄道高架に伴い、大國魂神社参道沿いの駅周辺で4つの再開発事業が進み、それらが空中デッキでつながっています。③聖蹟桜ヶ丘は、駅全体を2棟の駅ビルが囲み、さらに2棟の別館や再開発ビルハデッキで続き、駅と街が一体の建築物群を構成しています。

梅雨の合間に京王線に乗って3つの駅前地区を巡り、地下化+地上広場、高架化+デッキ、駅ビル群一体化という全く異なるパターンを実感しつつ、駅と街との良き関係を探っていきましょう。

1 ■調布駅周辺地区（駅の地下化、南北一体駅前広場、駅ビル、商業施設・文化施設群など）

評価:3.92 内訳:AAAAAABBBBBBBB

評価A◆歩行者中心の駅前広場整備が進んでいる。地下化した京王線の地上部も、タコ公園、駐車場、商業ビルが違和感なく整備されており、市街地の連続性や多様性が保たれている。

評価A◆鉄道の地下化により、駅前・駅上に広大な歩行者広場を創出し、開放性と快適性を実現している。駅周辺の商業施設や文化施設も、広場に面することで賑わい空間として再活性化しつつある。

評価A◆駅の地下化により、歩行者のための広場がゆったりとれていること、高木も残されていること、超高層の建築物が無く空も広いこと、交通広場が最小限になっていて、そこそこにベンチと樹木がセットで配置されている点等が良い。

評価A◆駅の地中化、南北一体駅前広場、文化施設群がとても良かった。

評価A◆南北一体の広場は、広くて気持ちのいい空間になっている。徒歩でも車でも、広くて開放的な空間が魅力。しかしながら、たまに車で広場の入るとバスとの関係や駐車スペースがよく把握できずいつも困っていた（人と車の関係性が不明瞭）。徒歩で利用すると、駅前の商業施設やカフェ等がそろっていて賑わいのある広場の雰囲気が良い。周辺の公共施設や裏の歩行者道？との関係で、広場がどのような使われ方がされているのか、興味深い。

評価A◆駅が地下化されたことで南北の往来が容易になったが、甲州街道に面していてパルコや西友等の商業施設、深大寺や布田天神等がある南口と、多摩川に接する住宅地が多くある北口のそれぞれの特色が薄れ、混じりつつあるような感じがある。

評価B◆駅前広場が、単なる鉄道とバスや自動車の乗り換え機能重視にならず、イベントを開催できる空間が複数用意されていることが評価できます。また、駅前広場に向ってテーブルを出している飲食店が複数あり、それぞれ賑わっていたことも評価できます。今後、植栽がもっとなされる計画なので、完成が楽しみです。



調布／鉄道地下化で広々して開放的な駅前広場



調布／歩行者広場と沿道建物テラスの一体利用

- 評価B◆駅前これだけの広場を確保していることは素晴らしい。まだ全体像が見えていないが、これだけ大規模な広場空間と周辺の複数のホールなどがうまく連携できれば、新たな文化が生まれるのではないかと。
- 評価B◆線路が地下化し広々とした文化施設につながる広場がとれているのは良い。音楽施設の前の広場などプチコンサートで音楽があふれ、またあちこちに居たい場所があり、街が人に開かれた感じがあって良かった。
- 評価B◆広場が整備中で全体像がよくわかりませんが、周辺の建物の足元に人の賑わいが出て来ているので、楽しい広場になる予感。相鉄線の地下化により創出された公園は親子で賑わっていた。いい空間ですね。
- 評価B◆線路の地下化により駅前広場が一体化され、広く明るく作られていたのが良かった。広場全体の完成後に再度立ち寄りたい。反面、駅前のシンボルとしての駅舎は無くなり地下鉄駅並みになってしまったのは残念。「映画の街」としていたが、それに通じるモノは歩いた範囲に見当たらなかった。
- 評価B◆線路で分断されていた昔と比べたら自由度が広がって、駅前としてよい形になりつつあると思います。駅ビル（トリエ）は分散されているのでちょっと、わかりにくい気もする。グリーンホールの足元が広場になっているのを知らなかったのも、良い意味で驚いた。（完成がまだ先なので、期待を込めてB）
- 評価B◆調布は、音楽や文学、映画など芸術文化のまちであることに誇りを持っていて、それは住民を幸せにする素晴らしいことです。建物も、超高層ではなく落ち着いた感じでした。その静かであるべき環境に駅舎は無粋であり、その代わりに木立を、と考えるのは良い案です。しかし、今後利益を追求するマンション事業者が進出してくることは十分考えられます。その時、市はどうするのでしょうか。（現在工事中でB）

2 ■府中駅周辺地区（駅の高架化、歩行者デッキ広場、再開発事業群、参道ケヤキ並木など）

評価:3.31 内訳:AAABBBBBBBBBBC

- 評価A◆ケヤキ並木の高さに抑えた再開発された建物+ケヤキ並木の景観は素晴らしい。地元のまちづくり組織によるエリマネも頑張っているみたいで今後は楽しみ。
- 評価A◆豊かな市です。古代から歴史を積み重ねてきたことに誇りを持ち、参道のケヤキ並木を大切にしてきたことに先見の明を感じます。駅前には賑やかで、周辺には高層マンションが多く、勢いを感じました。3階の高さの高架線路は、ケヤキ並木の展望に抜け感を与え、好印象です。駅の反対側も徐々に発展するポテンシャルは十分あるでしょう。一方、地図屋さんに見られたような多様性も維持して評価できます。
- 評価A◆駅の高架化、参道ケヤキ並木がとても良かった。
- 評価B◆鉄道は高架だが改札口が2階レベルなので、3つの再開発街区をつなぐデッキ空間と駅との関係は非常にスムーズ。デッキから参道のケヤキ並木へのアプローチがきちんとできていれば、街全体の回遊性ももっと高まったのではないかと。
- 評価B◆府中駅の改札口からペDESTリアンデッキへ出ても、府中のランドマークである大國魂神社がすぐには見えず、ケヤキ並木の参道へも細い階段を降りることになったり、商業施設の中を通る必要があったり、連続性が少し足りないように思う（駅前の歩行者デッキの下は、タクシーやバスの乗り場であり、一般の歩行者には面白味に欠ける風景である）。
- 評価B◆大國魂神社の参道と空中デッキ広場と再開発ビルとの関係性が、もう少しオープンな感じにつながっていたら、さらにいい空間になったのでは。参道の使われ方（人と車の関係）が、わかりにくい気がする。参道側に開いた店舗の構成（カフェテラス等）が見られず、残念。
- 評価B◆北側のデッキは高さも揃わず「取ってつけた感」あり。活用度も今一つの様子。南側デッキは広々して人々の往来も多く賑やかだった。大國魂神社に通じるケヤキ並木が、景観も含めてしっかり残せている。



府中／高架駅から続く歩行者デッキと再開発ビル



府中／大國魂神社参道櫛並木と再開発ビル提供歩道

評価B◆北口のデッキ接続には、階高のずれもありあまり計画性を感じなかった。一方南口はビルの階高が揃えられて、デッキ接続の一体感がすばらしい。けやき並木通り沿道も、並木と歩道と建物の店舗等の表情づくりも良く、気持ちの良いストリートになっている。

評価B◆大國魂神社方向の南側デッキは、広々としていて、それぞれの建物への接続も良好でした。このデッキには、風が強くない日に移動式のテーブルと椅子が出されるのですが、今回は見かけなかった。1階のバス乗り場は、このタイプの場合止むを得ないのであろうが、暗くて心地よくはありませんでした。

評価B◆買い物をするのならデッキのアクセスが良いが、大國魂神社に行くなら並木道を歩くのが良いと思う。

評価B◆参道の櫓は大木で、緑に溢れてよかったです。

評価B◆鉄道の三層高架化により、デッキと再開発ビルが円滑につながっているが、地上空間との関連が手薄。

評価C◆三層の高架駅であるため、2階の改札口とデッキが再開発ビルにつながる。府中のまちの魅力は、グラウンドラインレベルの参道ケヤキ並木なので、駅と参道が直につながると良い。空間構成に工夫が欲しい。

3 ■ 聖蹟桜ヶ丘駅周辺地区（駅の建築化、一体の駅ビル群+ブリッジ、複合再開発ビルなど）

評価:1.85 内訳:ABBBBCCCCCCD

評価A◆駅と商業施設やバスターミナル、マンション等が一群の建築物として構成され、デッキを介して再開発ビル（商業・文化・住宅）にも直結している。これこそ鉄道駅と都市建築の複合一体化の理想的形態である。

評価B◆駅と商業施設が一体化している施設は、買い物とかには本当に便利だなと改めて思いました。ブリッジは、そこそこ快適にそれぞれの建物をつないでいたと思います。

評価B◆限られた広さに、駅機能と商業施設とバスターミナルを押し込めるところなる、と言うのが良く見える施設でした。各施設がウナギの寝床のように連なっていてメリハリが薄いように思いました。

評価B◆駅近くに京王電鉄の京王ストアの本社があるように、京王グループの拠点であり、駅を中心に『囲い込み』を行っているように思える。駅から建物づたいに各施設へ移動できる反面、徒歩や自転車での地面レベルでのアクセスに対しては重きを置いていないように感じる。

評価B◆駅前再開発まちづくりをバブル前から頑張ってきたことがわかり、京王電鉄の想いが伝わります。歩行者デッキを整備するのは良いと思いますが、少し強引さを感じました。都心からの距離を考えると、国立タイプの上品で静かな町を目指す方がおすすりかもしれません。再開発ビルの円形空間は外から見て異質でしたが、内部には人が多くて、居心地がよいことが分かりました。高評価です。

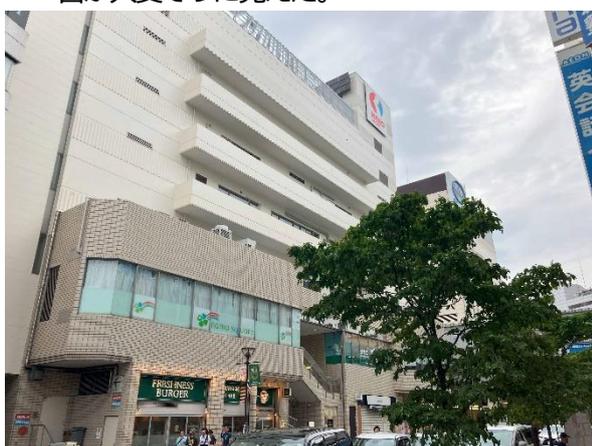
評価C◆駅ビル群が一体化していて、ショッピング等の利便性は高くなっている。周辺の新築当時の住戸は億ションであったとのこと。コンパクトで利便性を優先した再開発空間であることを実感した。

評価C◆駅と駅ビルが一体化させ、バスターミナルもその中に取り込み、周辺の建物とはデッキで接続するなど、機能的には良くできているように見えるが、広場などのオープンスペースがないので街の空間としては圧迫感がある。

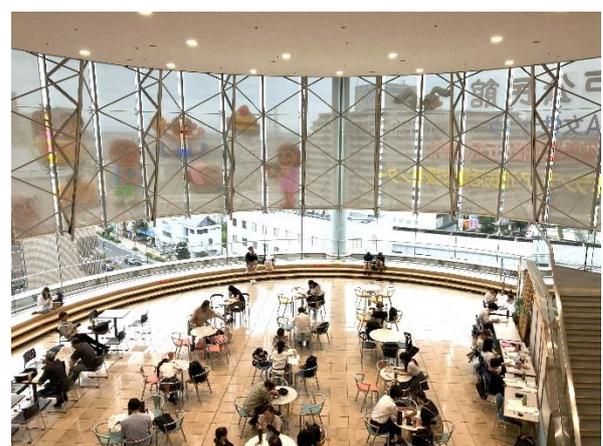
評価C◆初めて地上を歩きました。電車でアクセス、あるいは車でアクセスすると地上に降りることなく、その場合、連続しているのは便利です。でも地上で行き来すると階段が多い！ オープンの上に公共施設があるのは初めて知りました。吹き抜けで、人が集まる良い空間ですね。

評価C◆一体の駅ビル群は統一感があり歩きやすかったが、施設とマネジメントの更新が遅れているようでした。

評価C◆改札を出ると四方が商業ビルに囲まれていることに驚いた。駅から少し離れた再開発ビルの商業床の経営が大変そうに見えた。



聖蹟桜ヶ丘／駅と一体化した巨大な複合駅ビル群



聖蹟桜ヶ丘／再開発ビル内公民館の市民スペース

評価C◆駅につながる居場所がショッピング街しかない効率重視のひと昔前の開発に感じた。

評価D◆聖蹟桜ヶ丘駅の北口はビルの一体感があって特徴的だが、南口の京王ストアの作り方が閉鎖的で、周辺市街地への配慮がない。そのため、聖蹟桜ヶ丘再開発へのアクセスも、駅近部分の作りが隙間を縫ってつくったようで、駅の西口からのアクセスしかないに等しい。

4 ■今回歩いた中で、特に印象に残った場所など

調布駅南北一体駅前広場★線路の無い広々とした明るい空間。

調布駅南北一体駅前広場★良くできている。

調布グリーンホール前★昔は通路だったのが、広場になっていた。

調布グリーンホール前★イベント開催もあるが、カフェの賑わいとホール前の広場の雰囲気、スケールが良い。

調布国際音楽祭イベント★広場や小ホール、ロビーなどを活用し、一日中無料のミニコンサートが続いている。

調布市文化会館たづくり（中央図書館）★1階部分が広場的に設計されており、階段空間も含めてイベントとして使える設えになっているのが公共空間として素晴らしい。

調布文化施設★映画の街・調布が良かった。

調布トリエ★調布パルコの映画館がなくなってからしばらくの間は、『映画のまち調布』をうたっているものの映画館が無い、という状態だった。トリエの中に映画館ができたことで払しょくできた。「ゴジラー1.0」を制作した『白組』は隣の京王多摩川に所在し、成城の東宝撮影所と並んで、ゴジラの新しく聖地となるかもしれない。※ガメラや大魔神で有名な大映（角川大映スタジオ）や日活調布撮影所も調布市内にある

調布の鉄道敷地公園（京王線地下化）★良い空間を作ろうと京王が頑張っていることに、好感を持ちました。

調布の鉄道敷地公園（京王線地下化）★隣地との目隠しもあり、子供が遊ぶのにいい空間になっていた。

調布真光書店★地下に降りると、調布関連本やマニアックな品揃えに感心した（「古代メソポタミア史」を購入！）。

調布百店街★ちょっと怪しげな雰囲気の路地空間が面白い。

調布百店街★界隈性が良い。

府中参道櫛並木★居心地の良い空間になっていると思った。

府中参道櫛並木★大國魂神社の参道並木道が、駅前の空間の一部として気持ちの良い空間をつくりだしている。

府中参道櫛並木と拡張された歩道空間★歴史を継承した素晴らしい空間。

府中馬場大門の櫛並木★よく保存されている。

大國魂神社★手水舎の周縁が素晴らしいことに気づいた。三間社流造の本殿が良く見えないのが残念。

アトリエ77（府中本町の地図店）★自分で歩いてあれだけの絵地図をつくるとは驚き。

アトリエ77（府中本町の地図店）★ご自分で歩いて、絵をかいて、販売するなんて、すごい。

アトリエ77★オーナー手書きの絵地図を売っている。買いそびれてしまったので今度寄ろうと思う。

府中の国司館跡★地形と歴史（人の営み）を感じ、府中や府中街道の意味を意識できた。

府中の国司館跡★まちの歴史を学べる貴重な遺産。

府中の国司館跡★国司館跡をイベント広場として活用しているのが面白い。

府中の酒座中久本店★旧甲州街道の府中宿高札場前に、今も豪壮な商家を構えて、新築部分のデザインも秀逸。

府中宮西国際通り★昔ながらの商店街が一気にマンション街へと変貌しつつある。

府中宮西国際通り★ついに借地借家権の始末がつかないまま開発することになりました。ようやくこの戦後が終わったということです。



開発からとり残されて昭和情緒が漂う調布百店街



ついにマンション化の波が押し寄せた府中宮西通り

聖蹟桜ヶ丘の京王百貨店★駅改札口からバスターミナルやデッキへの通路を兼ねたヒューマンな店内が心地よい。
聖蹟桜ヶ丘の関戸公民館★再開発ビルの上層階にあり、広い吹き抜けロビーに市民・高校生が自由に集っていた。

5 ■鉄道踏切を除去し、街の分断を解消するために、鉄道の高架化や地下化が進められていますが、 駅と街との良き関係を考えて、駅ビルを含めてどのような空間構成が望ましいと思いますか。

- 駅と街との関係については、鉄道が高架か地下か、周辺の街や地形の状況などによって全く異なるのでケースバイケースだが、機能的に重要なのは、駅から街に人がいかにスムーズに移動できるか（改札と街とのレベル差や車道・交通広場がバリアにならない）ということだと思う。また機能的な面とは別に、鉄道や駅舎は街にとって象徴的な存在であるが、鉄道が地下化することでその存在感が薄れ、その街にとって重要な空間が大きく変化することとなる。その意味では、調布のように鉄道や駅舎が見えなくなる代わりに、象徴的な空間として大規模な広場を整備するという方法は面白い試みだと思う。
- 地下化が一番良いのではないかと思います。第1の理由は、使い方の自由度の高い空間が多く生まれることで、明るくて緑の充実した商業施設や緑道などを整備することができることです。第2の理由は、連続する高架によって視線が遮られることがないため、鉄道による分断を感じることなく、開放感が高くなるからです。一方で、工事費が大きくなるといった課題があると思います。また、地形の都合で、高架化が合理的な場所であり、地下化を選択したくてもできない場合も多いのではと思います。
- 空間構成として考えると、商業施設を利用する者だけでなく、駅機能だけを利用する者にも便利な動線が確保されているのがベスト。景観悪化が避けられない高架化よりも地下化の方が望ましいのでしょうか、実際に高架化が多いのはコスト面からでしょうか。
- どこも基本的には歩行者優先の整備が進められているが、その空間が心地の良い場所になっているかが大事だと思う。ただ空地をつくるのではなく、周辺の再編に併せて、用途も広場も連続性があって、違和感のない空間づくりができるかが鍵だと思う。
- まさに今、京王線がその工事に取り組んでいます。が、そもそも駅前広場のない駅が多いので、建物よりも広さのある空間ができることが望ましいと思う。
- 駅ビルによって分断された街に回遊性が創出されるのは素晴らしいと思いますが、街の成り立ちによって駅ビルのタイプ（ありよう）も様々なので、どのような空間構成が望ましいか？は難しい問題です。
- 駅直近のビルが駅から降りてくる人を囲ってしまうのではなく、街の分断を解消するためにも、駅、駅ビルは街に開いた空間構成が望ましいと思う。
- 緑とベンチがあり、自由に使える広場空間をなるべく広く設けてほしい。高齢社会の中で、店舗等を利用しないとベンチやイスに座れない空間が増えているような気がしている。
- 鉄道駅や線路が地下化あるいは高架化することで踏切がなくなり、交通渋滞の解消や人の往来の活発化が起きているが、周辺道路のキャパシティが後追いになることが少なからず見られる。調布駅周辺の場合、駅の南北でロータリーが分かれているため、南北の移動は近くの道路に振り分けられる状況は続き、かつて赤線が存在した仲町通りの二車線化（これまでは一車線で、旧甲州街道から国道20号線に向けての一方通行）などの道路整備が必要だろう。郊外は自動車の利用が多いため、「歩車分離」に対する考え方もいろいろあるように思う。
- 利用者の利便性が第一だが、過去の歴史を活かしてもらいたい。
- 高架でも地下でも、駅を降りたら、広場など地べた感と、街への解放感、街の個性が醸し出す空気感を感じたい。駅ビルで駅舎ではなく駅への入口という機能面だけになっているのは寂しい。東京駅や国立のように駅舎をシンボルとして残されているのは、ノスタルジックかもしれませんが良いと思う。
- 長距離列車の発着駅は、別れと出会い、旅立ちと帰郷の場所です。東京をはじめ県庁所在地や、ヨーロッパの都市では、駅舎は象徴性が高く、まちのシンボルです。対極が地下鉄の駅です。出入口がぼつぼつあるだけの、駅前広場もないスタイルス駅です。一般に近距離移動に供されるからでしょう。それでも人生のドラマはありますが……。都市部と田舎という種別もあります。田舎では列車の発着数が少なくても他の地域と繋がるという象徴性があり、駅舎は小さくても大切です。都市部の中・近距離移動のための駅の駅舎については、それぞれ市民と話し合い、決めていけばよいと思います。駅ビルは便利ですが、あまり好感を持っていません。どこの町の駅も同じ風情になってしまったらつまりません。駅舎は地域の一体性を育む公共財です。国立の駅舎保存はその典型だと思います。
- ①街の中心としての駅空間のシンボル性、②駅から街への円滑な移動可能性、そして③空間自体の居心地の良さ、が必要条件である。調布では駅舎を地上から消すことで、逆にシンボリックな広場空間を創出している。聖蹟桜ヶ丘では、この3条件すべてを複合一体建築化によって実現している。前回の西国分寺も優れた事例。

6 ■ 今回の企画全体に対する感想など

- 京王線沿線の3つの駅を巡るまち歩きは、各々の駅と街の関係が比較でき、なかなか面白い試みだったと思います。特に聖蹟桜ヶ丘は駅前広場が無いことで街の密度感が強く感じられ、オープンスペースの重要性が良くわかりました。調布の駅前広場が全部できたらまた行きたいと思います。(KT)
- 広場を介して周辺の街との一体性を作り出そうとしている調布駅周辺、歴史の遺産を活用して駅前のルールづくりからまちづくりに取り組む府中駅とその周辺、ニュータウン通じる入口として先陣を切って計画された聖蹟桜ヶ丘駅、それぞれに特徴があり面白かったです。(IY)
- 調布や府中、聖蹟桜ヶ丘は通過することが多いが、駅前の作り方がそれぞれ異なっており、比較して見るには良い機会だった。特に調布の変わり方が大きく、駅前ロータリーの作り方や既存周辺施設と関係など工夫されていて、整備が完了するのが楽しみになった。当日のご案内をいただきありがとうございました。(FMa)
- 前回の中央線に続き京王線の駅と街の関係を歩いて見る企画は、鉄道、駅舎の地下化、三層高架化、二層高架化の違いも実感できて、とても為になる楽しい企画でした。ご案内いただいた皆さん、ありがとうございました。(HM)
- 今回歩いた3つの街に対するイメージは、『調布』は、東京23区の隣町であり、多摩地域への入口（個人的には前者のイメージが強い）。近所の買い物や、深大寺にそばを食べ行く、映画を見に行く等の普段使いの街。※かつては布田五宿が存在したが、本陣や脇本陣はなかったらしく、中心地が絞りにくい街だったのではないかと『府中』は、古くから宿場町として存在してきた「衛星都市」（『町田』や『八王子』と似ている）。美術館、博物館、卸売市場での買い物、大國魂神社でのお札やお守りの授かりや焚き上げ等のちょっとした行事や行楽で行く場所。『聖蹟桜ヶ丘』は、企業や行政が計画的に作った新しくキレイでオシャレな街で、ここでしか買えないようなものを求める街。であり、それぞれでカラーがあるように思う。3か所とも、遊び場だったり、買い物場所だったりするので、使い分けができるというのは贅沢なことなのかもしれません。(YT)
- ここ2~3年、調布駅や府中駅を利用することが増えていたにもかかわらず、周辺との関係性等をじっくり見ることがなかったので、大変良い体験であった。土地（敷地・道路）や建物の権利関係、管理体制等と空間活用のされ方を探ると面白いかも。ユニークな企画を有難うございました。(KH)
- 鉄道駅の機能を考える時に、歩いて駅に入ってくる人のアクセスに加え、バス、自家用車、自転車からの乗りえ者にも配慮が必要で、それらを満足させるのは極めて難しいと改めて思いました。井の頭線以外の京王線沿線を地に降り足で歩いたのは今回初めてでしたが、この地域では京王グループも頑張っているのですね。(FMi)
- 駅と街の関係シリーズ、回を重ねるたびにどんな感じが良かったかということが自分なりに少し練られてきました。駅はどんどん消費の場（ビジネス）になり駅意識「駅コンシャス：エキコン」が薄れ、面白味がなくなる一方、広場や文化施設とつながり、文化的で楽しい機能が融合され、地域のトリガーとして何かが創造されていくことを期待します。毎回思うのですが、地元大田区の駅も良くなってほしいです。(HH)
- 今回歩いた駅、自分一人で行くことはまずないので、大変貴重な経験でした。企画者の方、ありがとうございました。(TK)
- 私は、首都圏の私鉄を利用したことが少ないので、今回の京王線巡りでは新しい知識が得られました。今回の企画、あるいは前回のJR中央線企画においても、ご案内いただいた方々の地元愛を強く感じ、これが地域を強く、より良くしていると思いました。(IK)
- 日常的に使うエリアながら、歩いたことのない道が多く楽しかったです。寄り道を増やしてしまい、すみませんでした。(AE)



府中本町 / 武蔵国司館跡にて

コーディネーターより■前回の中央線4駅に続き、今回は京王線の主要3駅を訪問しました。急遽開催が決ったこともあり、頼りないコーディネーターを見かねてか、Aさん、Sさん、Yさんが地元愛に溢れるご案内をしてくださいました。調布百店街は予定のコースでしたが、調布真光書店、府中の手書き地図屋、宮西国際通りは知りませんでした。ほかにも貴重なお話やご案内に、大変感謝いたします。なお、私自身は駅と街が建築的に一体複合した聖蹟桜ヶ丘を、理想的な姿として最も高く評価していたのですが、参加者からの評価の低さには愕然としました……。ともあれ、参加された皆さん、ありがとうございました。(OR)